特別寄稿

新理事長挨拶

自　然　と　開　発

東北地質調査業協会
理事長　永　井　　茂

この度新しく理事長に就任致しました、永井茂でございます。どうぞよろしくお願い致します。

平成のバブル不況に円高が追打ちをかけ、多くの業界が懸命に浮上策を模索する中、官公庁の公共事業を主体とする、我々地質調査業を含めた建設関連業は、数少ない安定・成長業種として、また経済成長の牽引車として、その将来性が大きく期待されております。

日本は今や、北米・ＥＣと並ぶ建設超大国となりましたが、さらに多額の貿易黒字の削減と、生活関連基盤整備の遅れを取りもどすため、来る21世紀までに年々、現在の規模を上回る事業量が約束されるという、大変に恵まれた環境にあり、さらに今後益々この勢いが強まることが予想されております。

しかしながら、国内から世界に目を転じたとき、地球規模の環境問題が急速に浮上・深刻化しつつあり、限られた地球という惑星のなかで、人類が継続的な発展を続けていくためには、エネルギー・素材等の資源に加えて自然環境も大切な資源として取り扱わねばならないことが明らかになって参りました。

私は趣味で蝶の採集を始めてもう半世紀になります。

以前は仙台市内にあった我家の庭でも、今では珍しくなってしまった蝶が幾種類も採集できました。オナガアゲハ、カラスアゲハ、ウスバシロチョウ、オオムラサキ、キベリタテハ、クジャクチョウ……etc.

残念ながら、私はこの杜の都仙台で、年々これらの蝶が姿を消して行くのを見ながら育ってきました。

蝶だけでなく、トンボ、ホタルなどもいつの間にか身近に見られなくなって久しくなります。

思えば人間は文明の発達という美名の下に、次々と自然を征服（破壊）して、自らが都合良いように勝手に作りかえて膨脹を続けてきました。

しかし、人類とてこの地球上に生息する動物の一つであることに変わりはなく、緑を失い、汚れた空気の中、濁った水で健康的な生活することは、いくら文明が進歩しても、絶対に出来ません。

私は、感傷・感情論で開発反対を叫ぶセンチメンタリストでは決してありません。

むしろ、人類の生活向上のためには、まだまだ生活基盤の整備・充実の必要性を感じており、今後も開発に携わるこの仕事を続けて行きたいと考えております。

しかし、この地球は人類一人のためにだけあるのでは決してなく、数十億年の時の流れの末に、すべての動植物が微妙なバランスを保って生きている、素晴らしい自然の芸術品であると言えましょう。

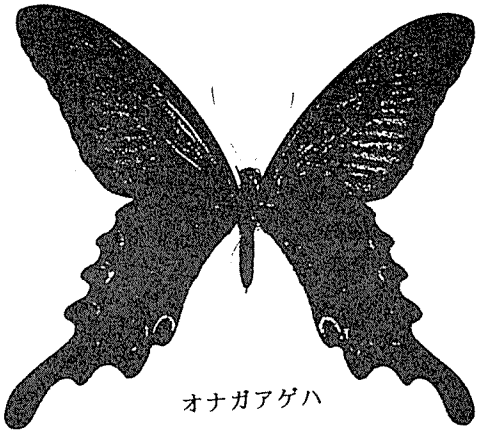
蝶一種類の絶滅が、地球全体の生態系のバランスにどれだけの影響を及ぼすかということは、とうてい私には計り知ることは出来ませんが、蝶やその他の昆虫が棲めなくなった環境が、人類に良い影響を与えることは絶対にないと、確信をもって言い切ることは出来ます。

蝶の採集を自然破壊につながる行為だと避難する人も居るようですが、知らないこととはいえ、蝶の食べる草木の生えている野や山をブルドーザーで根こそぎ整地し、トンボの住む池や沼地を埋め立てた所に家を建てて住んでいることの方が、はるかに罪が重いことを良く知ってもらいたいものです。

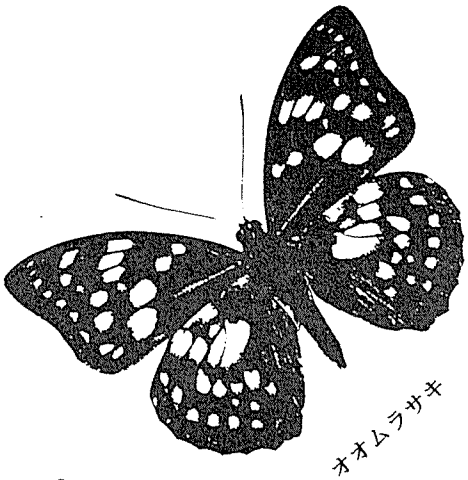
これからの開発は、当然自然環境と調和したものが主流をなすことになっていくでしょうが、主役が人間から自然・地球そのものへと変わりつつある今、私は蝶という指標（インデックス）を通して開発が正しい道を踏み外すことがないよう、常に見つめ続けて行きたいと考えています。

最後になりましたが、永年本協会の理事長をつとめられました、長谷弘太郎前理事長に心より敬意を表し、今後の協会発展のために会員増強と併せて、会員相互の連帯意識を深め、対外的なＰＲ活動等にも力を入れ、微力ではありますが、地質調査業の社会的地位向上のために力を尽くして参りますことをここにお誓いして、ご挨拶と致します。

仙台の自然

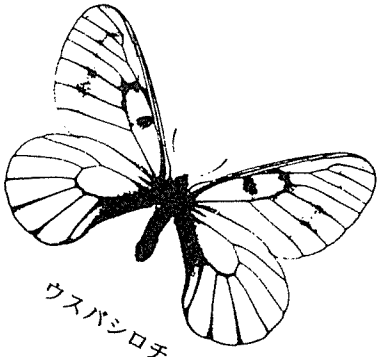


オナガアゲハ



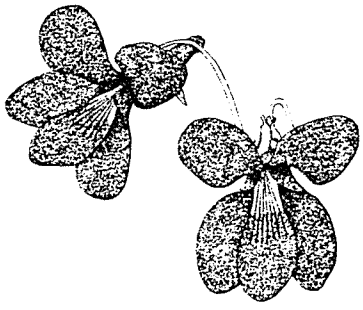
オオムラサキ

キベリタテハ

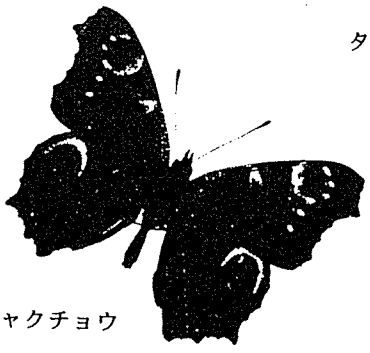


ウスバシロチョウ

タラの芽



スミレ



クジャクチョウ